

2008 8 Aug

No.3

国立大学法人 九州工業大学
産学連携推進センター

NEWS

annual

発行
九州工業大学産学連携推進センター
〒804-8550 北九州市戸畑区仙水町1-1
TEL (093) 884-3485 FAX (093) 881-6207
e-mail:office@ccr.kyutech.ac.jp

九州工業大学産学連携推進センター飯塚分室
〒820-8502 飯塚市川津680-4
TEL (0948) 29-7895 FAX (0948) 29-7899
e-mail:iizuka@ccr.kyutech.ac.jp

URL : <http://www.ccr.kyutech.ac.jp/>



KYUSHU INSTITUTE OF TECHNOLOGY COLLABORATION CENTER

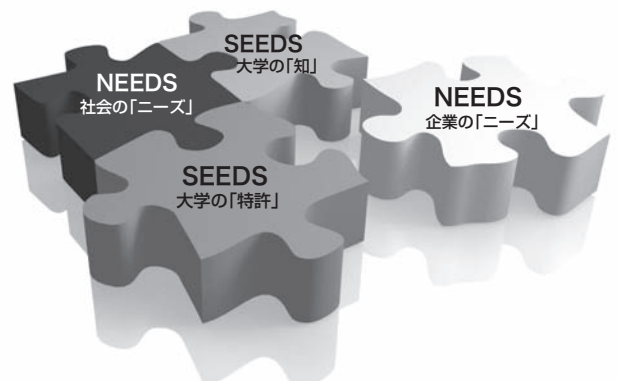


特集: *Special Issue*

文部科学省大学知的財産本部整備事業報告及び
産学官連携戦略展開事業について

C O N T E N T S

- 特集
文部科学省大学知的財産本部整備事業報告及び 2
産学官連携戦略展開事業について
産学連携推進センター知的財産部門長／教授 中村 邦彦
- 産学連携推進センター 飯塚分室長就任のご挨拶 5
産学連携推進センター飯塚分室長／准教授 小西 直樹
- 事業活動報告 6
- 平成19年度 共同研究一覧 11
- 事業採択実績 16
- コーディネータ&職員紹介 18



文部科学省大学知的財産本部 整備事業報告及び 産学官連携戦略展開事業 について



産学連携推進センター
知的財産部門長 教授

中村 邦彦

平成15年度から開始した文部科学省の「大学知的財産本部整備事業」において、全国で43校が採択されましたが、本学はこの中で、「特色ある知的財産管理活用機能支援プログラム」の実施対象機関に採択され、平成15年10月に知的財産本部を設立し、平成16年4月1日の国立大学の法人化から、地域共同研究センターや研究協力課と連携して、特許出願、技術移転等の業務を推進してきました。

平成20年3月末に終了するまでの実質4年間の活動においては、最小限の規模の知的財産スタッフが、学内の連携組織や学外の(財)北九州産業学術推進機構(北九州TLO)等の技術移転機関と連携することにより、活動経費を抑制して、多くの実績をあげました。

具体的な数値としては、法人化から4年間で、国内出願317件(見做取下含まず)、PCT出願66件、海外各国移行82件の特許出願を行い、43,895千円の技術移転収入を獲得しました。

図1に発明の届出と特許出願件数の推移を示しています。図1から判るように、本学では法人化された平成16年より劇的に特許出願が増加しました。これは、法人化前迄はTLOや個人で出願していたものを、国立大学法人が出願するようになったことと、知的財産本部が特許出願のためのサービスを提供するようになったので出願しやすくなったことによります。ちなみに、文部科学省がまとめた出願件数ランキングによると、本学は国立大学法人の中

で、平成16年度は14位、平成17年度は18位、平成18年度は11位でした。

平成18年度迄は、国立大学法人が出願した特許については、特許料が全額免除になりましたが、平成19年度からは減免率が低くなりましたので、費用対効果の観点からより厳選して出願するようになり、出願の増加傾向は収まっています。

出願した特許は、産業界に技術移転を図り活用しなければなりません。図2には、技術移転して得た技術料収入の推移を示しています。斜線は、大学が技術移転活動を行い収入を獲得した部分で、毎年順調に増加しています。黒は、TLOが技術移転活動を行い大学に配分した収入にあたる部分、白は、特許等の技術移転に伴うコンサルタントによる収入にあたる部分、白は、共同研究において成果譲渡を予め約束する対価です。単に特許ライセンスだけではなく、プログラムの著作権、ノウハウ等も含めて、種々の技術移転形態により収入の獲得に努めています。文部科学省がまとめた特許ライセンス収入ランキングによると、本学は国立大学法人の中で、平成17年度は15位、平成18年度は9位でした。出願した特許を着実に技術移転収入の獲得に結びつけているという実績は、本学の研究成果は実用性が高いことを証明

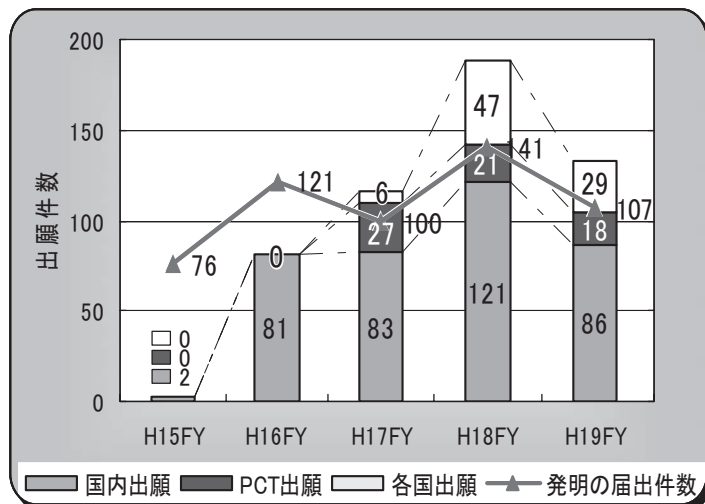


図1 発明の届出と特許出願件数の推移

しているものだと思います。

平成18年10月1日には、知的財産本部を地域共同研究センターと組織統合し、知的財産部門、リエゾン部門、ベンチャー支援部門、教育支援部門からなる産学連携推進センターとして同じビル内に配置し、現在に至っています。この組織統合により、特許出願、技術移転を行う知的財産部門と共同研究・受託研究を行うリエゾン部門及び研究協力課間の連携がより深化したと思われます。図3は、共同研究・受託研究の契約実績の推移で、件数、金額ともに増加傾向にあり、組織統合後の平成19年度は金額が大きく伸びています。これらの伸張は、特許出願等の知的財産活動と共同研究、受託研究のマッチング活動の波及効果が相互に好循環しているものと思われます。

以上の数値化された実績は、産学官連携活動においては、規模の小さい工業系大学でも大きな総合大学に伍していけるということを証明したのもでもあります。

本学の産学連携推進センターにおいて、産学官連携活動に従事しているのは、企業において研究開発や知的財産業務に従事していた企業OBが多いのですが、継続して行く為には、若手人材の育成も課題であり、平成18年度は「連携機関による技術移転業務のマネジメント人材育成プログラム」に採択され、内部若手人材をTLO、先進的な産学連携活動を行っている他大学等に派遣し、半年間の研修を積ませました。産学官連携を支援する研究協力課産学連携係で研修の成果を生かして活躍しています。

平成19年3月29日には、従来まで活動していた民間機関、関係機関を対象とした技術交流会（三木会）を発展させ、会員約150（現在、約250）を集めて、九

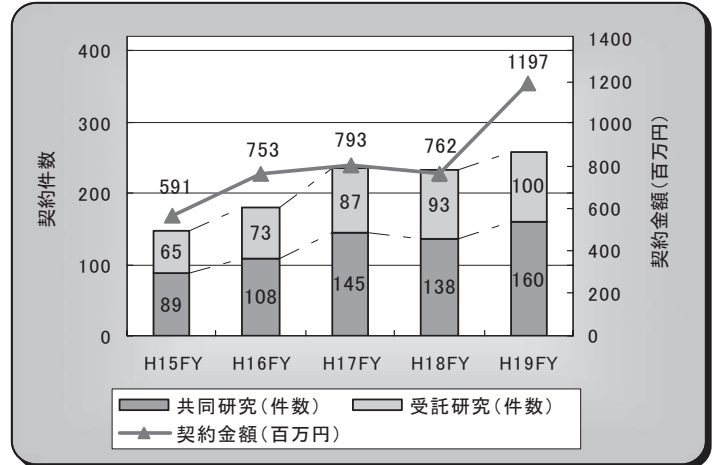


図3 共同研究・受託研究の契約実績の推移

州工業大学技術交流会（キューテックコラボ）を設置しました。学内外の講師による講演会の開催、各分野の産業課題における研究会の立ち上げ、大学技術シーズの紹介等を行い、発展的に地域社会との連携を展開しています。

平成19年度には、「国際的な産学官連携の推進体制整備事業」が実施され、全国で17校が採択されました。本学はこの中で、「特色ある国際的な産学官連携の推進機能支援プログラム」の実施対象機関に選定され1年間の活動ではありましたが、充実した成果を挙げることができました。

まず、外国語に堪能な若手人材を新規に採用し、OJTや外国への出張や派遣研修を通して、国際的な業務に対応できるように育成しました。最近、宇宙、バイオ、IT、半導体等の先端分野において、本学の共同研究の枠組みが国際化し国際的な業務が急増していますので、タイムリーな人材育成であり、平成19年度の事業の成果が、本学の今後の国際的な産学官連携の展開に繋がるものでした。この事業における国際的な産学官連携については、地理的・文化的な観点から、アジア特に韓国との連携を重視して活動を行いました。その具体的な成果としては、韓国バイオ系ベンチャー企業への特許ライセンスを成約し、韓国特許庁の下部機関である韓国発明振興会との知的財産に関する相互協力協定を締結しました。

大学の産学官連携が国際化すると、安全保障貿易管理が重要になりますが、全国の大学の中で学内規程等を定めて安全保障貿易管理を行っているのは、本学一校だけということなので、今後も益々の

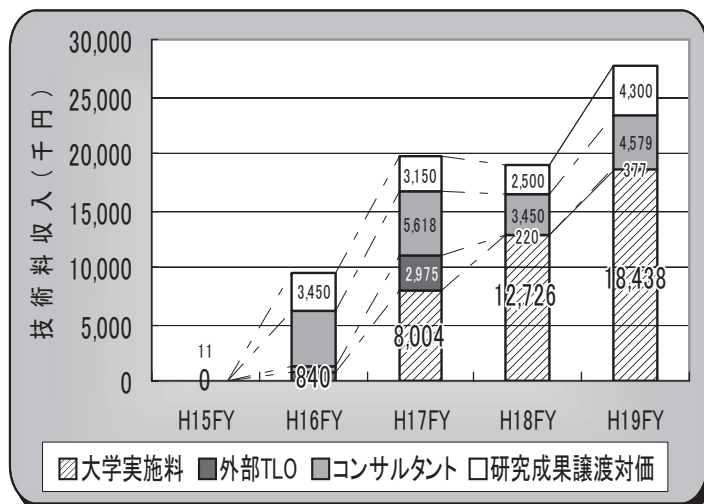


図2 技術料収入の推移

充実を図り他校の模範となり続けられるようにしたいと思います。

さて、上記の5年間実施された「大学知的財産本部整備事業」及び1年間実施された「国際的な産学官連携の推進体制整備事業」の終了を受けて、平成20年度からは、新たに「産学官連携戦略展開事業」が開始されますが、本学はその中で「特色ある優れた産学官連携活動の推進」の実施対象機関に選定されました。

図4は文部科学省から発表された九州・沖縄地区における採択校を示しています。「特色」では、本学だけの採択でしたので、責任の重さを感じております。

これからの5年間の「産学官連携戦略展開事業」では、これまでの5年間の「大学知的財産本部整備事業」で築き上げた基盤の上に、財政的に自立できる知的財産部門を築かなければならないと思います。そして更には、本当の目標である知的創造サイクルを回すことに貢献できる知的財産部門に発展していかなければならないと思います。

この事業で本学が目指す特徴のキーワードは、「事業化」、「地域」、「特定分野」です。

まず、「事業化」においては、テーマの設定から事業化まで一貫通貫の産学連携を推進するニーズ指向のモードⅡ型（ソリューション型）の推進を目指し

ます。また、将来株式を上場するような大学発ベンチャーの育成を目指します。

「地域」においては、九州工業大学技術交流会（キューテックコラボ）と合わせて、地域自治体や（財）北九州産業学術推進機構（北九州TLO）と共同で地域産学官連携ボードを立ち上げ、地域産業界のニーズを能動的に把握して、産学連携を推進することを目指します。東アジア、特に韓国を地域経済圏に密接に関係する国際的な地域として捉え、協定を締結した韓国発明振興会との関係を軸として、国際的な産学官連携を深めていくことを目指します。

「特定分野」においては、情報工学部を有する大学の責任として、大学がプログラムの著作権を活用するときに起こり得る諸問題を取り扱う研究会を設置し、本学のプログラムの著作権の活用を推進し、研究成果の公表を通して他大学や社会に貢献することを目指します。

最後に、本学の産学官連携活動が確固たるものになるには、研究者の知的財産業務能力が向上することが最重要なので、外部機関や弁理士に委託して、知的財産においてトップレベルの若手研究者を育成し、そのDNAを研究室に脈々と残し、更には周りの研究室にも伝播させ、研究者レベルで知的財産に強い大学となることを目指します。



図4 九州・沖縄地区産学官戦略展開事業採択校

産学連携推進センター飯塚分室長就任のご挨拶



産学連携推進センター飯塚分室長 准教授

小西 直樹

このたび、平成20年4月1日付けで産学連携推進センター副センター長の小黒龍一教授が兼任されていた産学連携推進センター飯塚分室長の後任を拝命いたしました。

これまでは、産学連携推進センターの業務に直接関わっていない状態でしたが、昨年より情報工学部において副センター長の小黒教授の補佐として、組込みセミナーや同セミナーの集中講座の業務を遂行してきたことより、このたび飯塚分室長に大抜擢されました。産学連携推進センターの業務は不慣れなこともあり、皆様方にはご迷惑をおかけする事もあるかと思いますが、ご指導ご鞭撻をいただきますよう、よろしくお願いたします。

産学連携推進センターでは、民間企業との連携、共同研究や受託研究の推進、大学発ベンチャーの展開等を目的として活動を行っております。

また、情報工学部がある飯塚地域では、旧産炭地からの脱却・新しい産業の創出を目指しており、飯塚トライバレー構想など地元の企業、自治体、大学が連携し、地域発展と新産業創出を推し進めています。このような背景の中、地元の期待に応えつつ産学連携推進センターの活動を推し進めるべく、日々精進して行きたいと考えております。

最後に、今年度より飯塚分室では、副センター長の小黒龍一教授ならびに堀田計之コーディネーターと事務補佐員と私とで業務を行って参ります。

これまで同様、皆様方からのご協力とご支援の程よろしくお願いたします。

○事業活動報告

平成19年度 活動報告

◇「九州工業大学技術交流会（キューテックコラボ）」

本学と産業界との一層の連携を深め、本学が保有する知的・人的・物的資源の活用を通じた成果の創出により地域社会の発展への貢献を図るため、平成19年3月に「九州工業大学技術交流会（キューテックコラボ）」が発足しました。平成19年度は、月例の産学官の交流の場としての「三木会（さんもくかい）」を開催するとともに、会のホームページの立ち上げや会員向けメールマガジンの配信などの情報提供事業、大学の研究室等が主催する各種「研究会」活動の支援等、各種事業を実施しました。

●「三木会（さんもくかい）」の開催

地域の皆様との連携をさらに深めるため、産学官の関係者の交流の場として、平成17年度から毎月第三木曜日に実施している「三木会」を引き続き開催いたしました。

12月の三木会は北九州イノベーションギャラリーにおいて「地域発ものづくりイノベーションの創出」をテーマに講演会を開催し、政策研究大学院大学の橋本久義氏による基調講演や本学の下村輝夫学長、北九州市寺西大三郎参与による取組紹介が行われました。



「三木会」（さんもくかい）の開催状況

開催日	テーマ	講師	
		所属・役職（講演当時）	氏名
平成19年4月19日	乾燥および凍結保存における水分コントロール技術	九州工業大学工学部機械知能工学科教授	鶴田 隆治氏
平成19年5月17日	マイクロ技術がヒトの未来を変える～マイクロポンプ～	九州工業大学生命体工学研究科准教授	宮崎 康次氏
平成19年6月21日	問題意識と無茶な発想による新技術の誕生<ターボ機械編>	九州工業大学工学部教授	金元 敏明氏
平成19年7月19日	自然と人、人と人をつなぐエコロジカル・デザインの話	九州工業大学工学部建設社会工学科准教授	伊東啓太郎氏
平成19年8月23日	性能よりも関係が価値を生む～プロセスデザインの魅力～	九州工業大学工学部建設社会工学科准教授	仲間 浩一氏
平成19年9月20日	高電圧技術から安全・安心を作り出す～絶縁診断と電界応用～	九州工業大学工学部電気工学科准教授	大塚 信也氏
平成19年10月18日	産学連携で日本一になる方法～ホンモノの産学連携のすすめ～	九州工業大学産学連携推進センター技術移転アソシエイト	長田 純夫氏
平成19年11月15日	ベンチャー企業の栄光と挫折…そして再起～失敗から学んだノウハウすべてをお教えします～	環境電子株式会社 代表取締役	山本 隆洋氏
平成19年12月20日	基調講演「がんばれ日本のものづくり～中国でできること、できないこと～」 取組紹介「イノベーション創出に向けた産学連携と人材育成」 取組紹介「北九州イノベーションギャラリーの紹介」	政策研究大学院大学 教授	橋本 久義氏
		九州工業大学 学長	下村 輝夫氏
		北九州市 参与	寺西大三郎氏
平成20年1月17日	地域イノベーション戦略～地域経済の活性化と国際競争力の向上～【事業開発ビジネス講座】	経済産業省 地域経済産業グループ 地域技術課長・産業クラスター計画推進室長	古瀬 利博氏
平成20年2月21日	真の協業による事業開発～知財戦略とビジネスモデル、Field Allianceの時代～【事業開発ビジネス講座】	システムインテグレーション(株) 代表取締役社長（九州工業大学客員教授）	多喜 義彦氏

●研究会活動

九州工業大学技術交流会(キューテックコラボ)では、会員企業、研究室等が主催する研究会を支援しています。現在、分野、テーマ別に次のような研究会が活動中です。

名称	担当教授(立ち上げ当時)
粉体工学研究会	鹿毛 浩之 教授
時代を拓く新しい機械材料について共に考える会(新材料研究会)	原田 昭治 教授、 野田 尚昭 教授 他
ものづくり研究会	小森 望充 教授 他
バイオ機器研究会	竹中 繁織 教授
エネルギー研究会	金元 敏明 教授、 三谷 康範 教授 他
機能性複合材料研究会	西尾 一政 教授
環境・リサイクル研究会	長田 純夫 客員教授
インターンシップ研究会	仲間 浩一 教授



◇「事業開発ビジネス講座～地域イノベーションの創出に向けて～」

社会人向けの公開講座「事業開発ビジネス講座～地域イノベーションの創出に向けて～」(全6回コース)を平成20年1月から3月にかけて、戸畑キャンパス(第6回は北九州テクノセンター)において開催いたしました。本講座は、平成17年度から本学の独自事業として実施しており、平成19年度は、地域の企業や大学が有している技術や資源をいかに事業開発に結びつけてイノベーションを創出していくかをテーマに、各方面の専門家や企業経営者による講義が行われました。

「事業開発ビジネス講座」の開催状況

開催日	テーマ	講師	
		所属・役職(講演当時)	氏名
平成20年1月17日	地域イノベーション戦略 ～地域経済の活性化と国際競争力の向上～	経済産業省 地域経済産業グループ 地域技術課長・産業クラスター計画 推進室長	古瀬 利博 氏
平成20年1月31日	技術流出と日本の課題	政策研究大学院大学 教授 日高東亜国際特許事務所 所長弁理士 (九州工業大学客員教授)	日高 賢治 氏
平成20年2月7日	事業開発のための経営戦略 ～事業アイデアを戦略として組み立てるには～	広島大学教授、大学院社会科学研究科 副研究科長 マネジメント専攻長	井上 善海 氏
平成20年2月21日	真の協業による事業開発 ～知財戦略とビジネスモデル、Field Alliance の時代～	システムインテグレーション(株) 代表取締役社長 (九州工業大学客員教授)	多喜 義彦 氏
平成20年3月6日	起業 ～いつ見ても波瀾万丈～	(株)しんわ食品、日本コラーゲン(株) 代表取締役社長	三浦 和子 氏
平成20年3月13日	マイルストーン計画による新商品・新事業の戦略的 開発の推進	国立大学法人 東京農工大学 大学院 技術経営研究科 非常勤講師	藤井 堅 氏

◇「中小企業との産学連携推進事業～チャレンジング・サポート事業等」

本学では、中小企業との連携を積極的に推進していくことを目的に、新たな共同研究に対し、共同研究費用の一部を支援する「チャレンジング・サポート事業（CS事業）」や次年度以降の競争的資金獲得に向けた活動を支援する「事業化可能性調査事業（FS事業）」を行っており、平成19年度からは、上記事業に加え大学のシーズを中小企業との共同研究に結びつけるため、新たに「スタートアップ事業（SU事業）」を開始しました。（平成19年度は、13のCS事業、3つのSU事業を支援）

◇「九州工業大学第2回新技術説明会」

平成19年12月17日（月）に東京のJSTホールにおいて、「九州工業大学新技術説明会」を昨年度に引き続き開催いたしました。新技術説明会は、発明者自身が企業関係者を対象に実用化を展望した技術説明を行うもので、今回は電気・電子技術及び電気・電子用途材料技術の次の9件について発表を行いました。

会場には延べ550名を越す参加者があり、大盛況のうちに終了しました。

なお、第3回新技術説明会は平成20年11月28日（金）に開催を予定しています。



第2回新技術説明会（所属・役職は説明会当時）

電 気	1. コンセント電圧による電力系統モニタリングと制御系設計 (工学部電気工学科 准教授 渡邊 政幸)
	2. 構造物の腐食鉄筋を簡便, 安価, 安全に診断できる非破壊評価技術 (大学院工学研究科機能システム創成工学専攻 教授 小森 望充)
	3. 部分放電検出による電力機器の絶縁診断装置 (工学部電気工学科 准教授 大塚 信也)
メカトロ	4. 極限環境をのりきるインテリジェント・スーツ (工学部機械知能工学科 教授 田川 善彦)
エネルギー	5. 色素増感太陽電池用フッ素ドーパ酸スズ透明導電膜 (工学部電気工学科 准教授 白土 竜一)
	6. ナノ粒子を利用したハイブリッドエネルギー変換素子 (大学院生命体工学研究科生体機能専攻 教授 早瀬 修二)
材 料	7. 金属薄板に対する精密分離および穴あけ方法の開発 (工学部物質工学科 准教授 廣田 健治)
	8. 高密度ラジカルを用いた銅材料の表面改質技術 (工学部電気工学科 准教授 和泉 亮)
	9. 新規な紐状炭素の製造方法 (工学部物質工学科 准教授 坪田 敏樹)

◇九州工業大学「METI特別講演」

平成20年3月19日(水)、本学の客員教授で経済産業省化学物質管理課長の獅山有邦氏を講師に迎え「METI特別講演」を開催しました。講演では、「安全かつ安心できる社会の実現に向けて」をテーマに、社会に製品やサービスを提供する事業者には何が求められるのか、また、国際的な取組や我が国の政策の動きなど、今後の方向性について、御講演をいただきました。

「METI 特別講演」の開催状況

開催日	テーマ	講師	
		所 属・役 職 (講演当時)	氏 名
平成20年3月19日	安全かつ安心できる社会の実現に向けて	経済産業省 製造産業局 化学物質管理課長 (九州工業大学客員教授)	獅山 有邦氏

◇「国際的産学連携成果報告セミナー」

平成20年3月13日(木)、北九州テクノセンター(北九州市戸畑区)において、九州工業大学国際的産学連携成果報告セミナー—アジアの知財ネットワークの拠点を目指して—を開催しました。

本セミナーは、平成19年度文部科学省大学知的財産本部整備事業「特色ある国際的な産学官連携の推進機能支援プログラム」の一環として開催されたものです。

本学は、積極的に国際的産学連携を推進しており、今年、韓国発明振興会(KIPA)との協力協定を締結するなど、更にその活動を活発化しています。今回は、それら取組みの状況や成果について発表を行いました。

◇「展示会等への出展」

本学産学連携推進センターでは、以下の展示会等に出展し、本学の産学連携の取組や本学が保有する知的財産や研究シーズ等について、PRを行いました。

- インフォネットフェスティバル2007(5月・熊本県)
- 第6回産学官連携推進会議(6月・京都市)
- 新技術説明会(7月・東京都)
- イノベーションジャパン2007(9月・東京都)
- 九州・国際テクノフェア2007(10月・北九州市)
- エコテクノ2007・福岡水素エネルギー社会近未来展(10月・北九州市)
- 九州知的財産活用フォーラム2007(10月・福岡市)
- 第7回産学連携フェア(10~11月・北九州市)
- 産学官マッチングフォーラム(11月・東京都)
- INCHEM TOKYO 2007(11月・東京都)
(第26回化学技術複合展示会)
- 九州の自動車関連研究とモノづくり人材育成展(12月・福岡市)
- 新技術説明会(12月・東京都)
- 2008JTG Showcase(3月・米国フィラデルフィア)
- CPhi JAPAN 2008(4月・東京都)
(第7回国際医薬品原料・中間体展)

事業活動報告

◇ 連携協定を締結

❖ 大分県と連携に関する協定を締結

平成19年8月8日(水)、本学は、大分県と連携に関する協定を締結しました。

科学技術の発展、産業の振興、環境の保全等に貢献することを目的とし、「地場企業との技術連携」、「共同研究」、「人材育成」について連携を推進していくことで、合意したものです。

大分県庁で行われた調印式では、広瀬知事から「地域産業の強化のためには大学の研究が必要」、下村学長から「地域が求める人材育成や技術開発に貢献したい」と県境を超えた連携の必要性を再確認し、最後に下村学長と広瀬知事との間で固い握手が交わされました。

左：下村学長 右：広瀬知事



❖ 韓国発明振興会と相互協力協定を締結

平成20年1月10日(木)、本学産学連携推進センターは、韓国における特許政策振興の主要な機関である韓国発明振興会と相互協力協定を締結しました。

韓国発明振興会は、主として韓国における知的財産権の振興と特許技術の商業化を推進する目的で設立されている特別法人で、日本における(社)発明協会と同様な機能を有していますが、海外の大学と今回のような相互協力協定を締結するのは初めてのことです。

韓国発明振興会は韓国産業界における多くの会員との間に強いネットワークを有しており、本学が韓国の産学官との連携を推進していくうえでの心強いパートナーになるものと期待されます。

本学としては、国内の他大学や関連機関にも連携を呼びかけ、日韓双方の産学官連携においてWin-Winの成功モデルを作っていくと考えています。

右：鹿毛 浩之 産学連携推進センター長
左：李 執中 (LEE, JIP-JOONG) 事業本部長、常勤理事



❖ 培材大学校と協力覚書を締結

平成20年1月12日(土)、本学産学連携推進センターは、韓国の培材(ペジェ)大学校の産学研コンソーシアムセンター及び東北亜産業技術協力団との間で、知的財産権に関する協力の覚書を締結しました。この覚書は、両大学が保有する特許を活用し、日韓両国の企業を含めた産学連携を進めるためのものです。本センターでは、平成18年度から知的財産を核としたアジア地域での知財連携モデルの構築を図っており、平成18年6月に韓国の昌原(チャンウォン)国立大学校産学協力団、平成19年3月には韓国の水原(スウォン)大学校産学協力団との間で同様の覚書を締結しています。

右：林 大永 培材大学校産学研コンソーシアムセンター長兼東北亜産業技術協力団団長
左：鹿毛 浩之 産学連携推進センター長



○平成19年度 共同研究一覽 (160件)

※部局・所属：平成19年度現在 ※職名：平成20年6月1日現在

部局	所属／職	氏名	共同研究先企業等名	研究題目
工学部	機械知能工学科 ／教授	鶴田 隆治	株式会社フリーザーシステム	「冷凍食品の品質を維持する冷凍ユニット」の研究開発
工学部	機械知能工学科 ／教授	鶴田 隆治	株式会社アールニッセイ	マイクロ波による使用済み脱硫触媒の効率的リサイクルプロセスの開発
工学部	機械知能工学科 ／教授	鶴田 隆治	非公表	非公表
工学部	機械知能工学科 ／教授	野田 尚昭	非公表	非公表
工学部	機械知能工学科 ／教授	梅景 俊彦	新日本製鐵株式会社 技術開発本部 環境・プロセス研究開発センター製鉄研究開発部	CO2 排出ミニマムを目指した実高炉内の多相(固気粉)流れの大規模シミュレーション
工学部	機械知能工学科 ／准教授	河部 徹	株式会社ケン・マツウラ レーシングサービス	レースエンジン用バーチャルベンチの開発
工学部	機械知能工学科 ／准教授	清水 浩貴	株式会社岡本工作機械製作所	工作機械上での被測定物のナノ測定方法の確立
工学部	機械知能工学科 ／助教	西田 健	安川情報システム株式会社	3次元計測技術の確立
工学部	建設社会工学科 ／教授	幸左 賢二	八千代エンジニアリング株式会社 総合事業本部	開削トンネルの合理的な配筋手法に関する研究
工学部	建設社会工学科 ／教授	永瀬 英生	非公表	非公表
工学部	建設社会工学科 ／教授	永瀬 英生	非公表	非公表
工学部	建設社会工学科 ／准教授	廣岡 明彦	ヒロセ株式会社	テールアルメ工法の橋台背面補強への応用実験
工学部	電気工学科 ／教授	桑原 伸夫	大和冷機工業株式会社 技術本部	冷凍機に使用する駆動システムのEMI低減法に関する研究
工学部	電気工学科 ／教授	桑原 伸夫	NTTアドバンステクノロジー株式会社 アクセスネットワーク事業本部	容量性電圧プローブの周波数拡大と評価法に関する研究
工学部	電気工学科 ／教授	近藤 浩	非公表	X線デジタル画像診断装置に関する研究
工学部	電気工学科 ／教授	趙 孟佑	独立行政法人宇宙航空研究開発機構 総合技術研究本部	導電性テザーの放電試験
工学部	電気工学科 ／教授	趙 孟佑	独立行政法人宇宙航空研究開発機構	人工衛星のプラズマ干渉・帯電に関する研究及び宇宙環境への高電圧バス技術の適用研究
工学部	電気工学科 ／教授	趙 孟佑	独立行政法人宇宙航空研究開発機構	静止軌道衛星の帯電を防止する受動型電子エミッタの実用化研究
工学部	電気工学科 ／教授	匹田 政幸	桑原電工株式会社	回転機のレヤー絶縁診断システムの開発
工学部	電気工学科 ／教授	匹田 政幸	株式会社ジェイ・パワーシステムズ	部分放電発生位置標定精度向上に関する検討
工学部	電気工学科 ／教授	匹田 政幸	株式会社日本AEPowerシステムズ	UHF法による3相一括ガス絶縁開閉装置(GIS)の放電(PD)要因アルゴリズムの確立に関する研究
工学部	電気工学科 ／教授	匹田 政幸	株式会社東芝 浜川崎工場	GISにおける部分放電パルス伝搬／漏洩現象の調査・解析に関する研究
工学部	電気工学科 ／教授	匹田 政幸	株式会社東芝 浜川崎工場	油入変圧器のUHF部分放電伝搬の検出及び解析に関する研究
工学部	電気工学科 ／教授	匹田 政幸	株式会社東芝 浜川崎工場	電力系統における特殊遮断責務解析に関する研究
工学部	電気工学科 ／教授	匹田 政幸	株式会社東芝 浜川崎工場	マイクロマシーンを使った診断技術開発
工学部	電気工学科 ／教授	匹田 政幸	株式会社東芝 浜川崎工場	ガス中金属蒸気の拡散の測定に関する研究
工学部	電気工学科 ／教授	匹田 政幸	東京電力株式会社	非公表
工学部	電気工学科 ／教授	匹田 政幸	非公表	非公表
工学部	電気工学科 ／教授	匹田 政幸	非公表	非公表

部 局	所 属 / 職	氏 名	共同研究先企業等名	研 究 題 目
工学部	電気工学科 ／教授	前田 博	株式会社ジオ技術研究所	3次元地図作成に関する研究
工学部	電気工学科 ／教授	三谷 康範	非公表	非公表
工学部	電気工学科 ／准教授	和泉 亮	東洋ステンレス研磨工業株式会社	高耐食性透明絶縁膜の各種金属への適用
工学部	電気工学科 ／准教授	和泉 亮	大日本印刷株式会社研究開発センター	Hot-Wire CVD法に関する共同研究
工学部	電気工学科 ／准教授	大塚 信也	日本カタン株式会社	アークホーンの耐コロナ設計手法に関する研究
工学部	電気工学科 ／准教授	大塚 信也	非公表	非公表
工学部	電気工学科 ／准教授	中司 賢一	非公表	非公表
工学部	電気工学科 ／准教授	中司 賢一	非公表	非公表
工学部	電気工学科 ／准教授	渡邊 政幸	非公表	非公表
工学部	物質工学科 ／教授	恵良 秀則	非公表	非公表
工学部	物質工学科 ／教授	恵良 秀則	非公表	非公表
工学部	物質工学科 ／教授	横野 照尚	株式会社メタルテック	Sドーブ可視光型光触媒を用いた防菌・防臭に関する研究
工学部	物質工学科 ／教授	横野 照尚	非公表	非公表
工学部	物質工学科 ／教授	横野 照尚	非公表	非公表
工学部	物質工学科 ／教授	大谷 博司	財団法人くまもとテクノ産業財団	合金組成開発—ダイカスト材用合金開発—(熊本県地域結集型研究開発プログラム 次世代耐熱マグネシウム合金の基盤技術開発)
工学部	物質工学科 ／教授	大谷 博司	古河電気工業株式会社横浜研究所	準安定相予測技術を用いた機能性金属材料技術開発
工学部	物質工学科 ／教授	大谷 博司	非公表	非公表
工学部	物質工学科 ／教授	鹿毛 浩之	非公表	非公表
工学部	物質工学科 ／教授	長谷部光弘	非公表	非公表
工学部	物質工学科 ／教授	長谷部光弘	非公表	非公表
工学部	物質工学科 ／教授	松本 要	非公表	非公表
工学部	物質工学科 ／教授	吉永 耕二	大塚化学株式会社	鱗片状チタン酸フィラー水分散液 HTO ポルのフィラー表面疎水化に関する研究
工学部	物質工学科 ／教授	吉永 耕二	非公表	非公表
工学部	物質工学科 ／教授	吉永 耕二	非公表	非公表
工学部	物質工学科 ／教授	吉永 耕二	非公表	非公表
工学部	物質工学科 ／准教授	植田 和茂	独立行政法人科学技術振興機構	酸化物及び非酸化物化合物から構成される層状化合物のナノ構造を活用した機能の開拓
工学部	物質工学科 ／准教授	高須登実男	JFE商事株式会社	資源やプロセスの調査研究
工学部	物質工学科 ／准教授	高須登実男	有限会社MCS	地球資源の有効利用を目的とする再生技術の開発
工学部	物質工学科 ／准教授	坪田 敏樹	非公表	非公表
工学部	物質工学科 ／准教授	坪田 敏樹	非公表	非公表
工学部	物質工学科 ／准教授	廣田 健治	トヨタ自動車株式会社 ドライブトレン生技部	高強度塑性結合法の開発—部材間の硬度差が大きい場合に関する基礎的検討—
工学部	物質工学科 ／准教授	廣田 健治	株式会社MEG	ねじり強度を重視した硬質部材どうしの塑性結合に関する研究

部 局	所 属 / 職	氏 名	共同研究先企業等名	研 究 題 目
工学部	物質工学科 ／准教授	山村 方人	非公表	非公表
工学部	物質工学科 ／准教授	山村 方人	非公表	非公表
工学部	物質工学科 ／准教授	山村 方人	非公表	非公表
工学部	共通講座 ／准教授	中尾 基	株式会社堀場製作所	フラッシング CVD 膜の評価に関する研究
工学部	共通講座 ／准教授	中尾 基	非公表	非公表
工学部	共通講座 ／准教授	中尾 基	非公表	非公表
工学研究科	電気工学専攻 ／准教授	池永 全志	日本電気通信システム株式会社	無線メッシュネットワークに関する共同研究
工学研究科	機能システム創成工学専攻 ／教授	増山不二光	財団法人金属系材料研究開発センター	極限環境下での材料の機能安定性に及ぼすナノ組織因子の解明と極限環境使用材料の開発に必要な実プラント課題解析および指導原理提示
工学研究科	機能システム創成工学専攻 ／教授	増山不二光	財団法人金属系材料研究開発センター	極限環境下での材料の機能安定性に及ぼすナノ組織因子の解明と極限環境使用材料の開発に必要な実プラント課題解析および指導原理提示
工学研究科	機能システム創成工学専攻 ／教授	松永 守央	非公表	非公表
工学研究科	機能システム創成工学専攻 ／教授	松永 守央	非公表	非公表
工学研究科	機能システム創成工学専攻 ／教授	山崎 二郎	非公表	非公表
工学研究科	機能システム創成工学専攻 ／教授	山崎 二郎	株式会社日立製作所 日立研究所	磁気ヒステリシス特性に関する研究
工学研究科	機能システム創成工学専攻 ／助教	森口 哲次	株式会社虎変堂	AIT等天然成分を用いた食品添加物グレードの厨房用(食品加工場等)抗菌剤の開発
情報工学部	知能情報工学科 ／教授	乃万 司	非公表	非公表
情報工学部	知能情報工学科 ／准教授	瀬部 昇	非公表	非公表
情報工学部	知能情報工学科 ／准教授	吉田 香	安川情報システム株式会社	非公表
情報工学部	知能情報工学科 ／助教	榎田 修一	安川情報システム株式会社	動画像における超解像処理に関する研究
情報工学部	知能情報工学科 ／助教	榎田 修一	非公表	非公表
情報工学部	電子情報工学科 ／教授	尾家 祐二	株式会社トヨタIT開発センター	非公表
情報工学部	電子情報工学科 ／教授	尾家 祐二	非公表	非公表
情報工学部	電子情報工学科 ／教授	尾家 祐二	非公表	非公表
情報工学部	電子情報工学科 ／教授	尾知 博	非公表	非公表
情報工学部	電子情報工学科 ／教授	梶原 誠司	株式会社システム・ジェイディー	テストパターンでの低消費電力化(その2)
情報工学部	電子情報工学科 ／教授	鶴 正人	株式会社KDDI研究所	多地点ISP品質計測・障害検知・経路監視技術に関する共同研究
情報工学部	電子情報工学科 ／教授	鶴 正人	非公表	非公表
情報工学部	電子情報工学科 ／教授	松下 照男	財団法人国際超電導産業技術研究センター	高温超電導線材のピン止めメカニズムの研究
情報工学部	電子情報工学科 ／教授	松下 照男	九州電力株式会社	第三高調波電圧を用いた高温超電導線材の臨界電流密度評価
情報工学部	電子情報工学科 ／教授	松下 照男	非公表	非公表
情報工学部	システム創成情報工学科 ／教授	井上 勝裕	松下電工株式会社 情報機器新事業推進部	就寝時睡眠状態推定に係る統合的技術開発に関する研究
情報工学部	システム創成情報工学科 ／教授	大川不二夫	安川情報システム株式会社	ロボットビジョン技術の確立
情報工学部	システム創成情報工学科 ／教授	岡本 卓	非公表	非公表
情報工学部	システム創成情報工学科 ／教授	小黑 龍一	非公表	非公表

部 局	所 属 / 職	氏 名	共同研究先企業等名	研 究 題 目
情報工学部	システム創成情報工学科 /教授	小林 史典	システムエルエスアイ株式会社	適応制御理論を用いた予測およびフィードバック制御系
情報工学部	システム創成情報工学科 /教授	延山 英沢	非公表	非公表
情報工学部	システム創成情報工学科 /教授	廣瀬 英雄	東京電力株式会社 技術開 発研究所	非公表
情報工学部	機械情報工学科 /教授	木村 景一	JSR株式会社	CMPにおけるパッド表面でのスラリーフローの研究
情報工学部	機械情報工学科 /教授	木村 景一	非公表	非公表
情報工学部	機械情報工学科 /教授	木村 景一	非公表	非公表
情報工学部	機械情報工学科 /教授	木村 景一	非公表	非公表
情報工学部	機械情報工学科 /教授	徳田 君代	非公表	非公表
情報工学部	機械情報工学科 /教授	堀江 知義	トヨタ自動車九州株式会社	スポット溶接シミュレーションの高精度化および溶接不具 合部の解析・検討
情報工学部	機械情報工学科 /准教授	永山 勝也	トヨタ自動車九州株式会社	自動車塗装乾燥炉における内部流動現象の数値解析に よる究明
情報工学部	機械情報工学科 /准教授	永山 勝也	非公表	樹脂原料製造工程の日ヤニ解消技術の開発
情報工学部	生命情報工学科 /教授	岡元 孝二	林兼産業株式会社	魚類動脈球由来エラスチンの研究
情報工学部	生命情報工学科 /教授	岡元 孝二	林兼産業株式会社	魚類動脈球由来エラスチンの研究
情報工学部	生命情報工学科 /教授	坂本 順司	株式会社アイテック	非公表
情報工学部	生命情報工学科 /教授	清水 和幸	非公表	非公表
情報工学部	生命情報工学科 /教授	清水 和幸	非公表	非公表
情報工学部	生命情報工学科 /准教授	大内 将吉	ベセル株式会社	細胞培養におけるプロテオミクスの応用
情報工学部	生命情報工学科 /准教授	大内 将吉	非公表	非公表
情報工学研究科	情報創成工学専攻 /教授	温 暁青	株式会社半導体理工学研究 センター	テスト時電力・ノイズ考慮テスト技術の研究
情報工学研究科	情報創成工学専攻 /教授	橋本 正明	松下電工株式会社	組込み系ソフトウェア分野の非正常系仕様設定技術の研究
情報工学研究科	情報創成工学専攻 /教授	吉田 隆一	@ESOFT Computer System (Pvt) Limited	遠隔医療のためのグループ連携システムの設計と実装
情報工学研究科	情報創成工学専攻 /教授	吉田 隆一	有限会社足立	ハンディキャッパー個人に応じた情報提供に関する研究
情報工学研究科	情報創成工学専攻 /教授	吉田 隆一	株式会社ゼンリン	XML符号化方式による3次元地図の記述
生命体工学研究科	生体機能専攻 /教授	尾川 博昭	東海ゴム工業株式会社 商品開発研究所	生活排水余剰汚泥分解菌の同定とその性状に関する研究
生命体工学研究科	生体機能専攻 /教授	尾川 博昭	東海ゴム工業株式会社 商品開発研究所	生活排水余剰汚泥の分解に関する研究
生命体工学研究科	生体機能専攻 /教授	金藤 敬一	イーメックス株式会社	導電性高分子ソフトアクチュエータの高性能化
生命体工学研究科	生体機能専攻 /教授	金藤 敬一	触媒化成工業株式会社	無機ナノ粒子との複合化による有機電子素子の特性改善
生命体工学研究科	生体機能専攻 /教授	白井 義人	特定非営利活動法人北九州 エコ・サポーターズ	ポリ乳酸製品の化学リサイクルのための水蒸気分解に関 する実証試験
生命体工学研究科	生体機能専攻 /教授	白井 義人	味の素株式会社	非公表
生命体工学研究科	生体機能専攻 /教授	白井 義人	非公表	非公表
生命体工学研究科	生体機能専攻 /教授	白井 義人	非公表	非公表
生命体工学研究科	生体機能専攻 /教授	白井 義人	財団法人北九州産業学術推 進機構	熱分解によるポリ乳酸素材から高純度ラクチドとポリ乳酸 の再生 (NEDO大学発事業創出実用化研究開発事業)
生命体工学研究科	生体機能専攻 /教授	白井 義人	FELDA PALM INDUSTRIES	新規有用物質生産のためのバイオガスおよびバイオマスの 有効利用

部 局	所 属 / 職	氏 名	共同研究先企業等名	研 究 題 目
生命体工学研究科	生体機能専攻 / 教授	塚本 寛	山九株式会社 技術・開発 本部	チタン溶接時のシールドガス挙動について
生命体工学研究科	生体機能専攻 / 教授	西尾 一政	非公表	非公表
生命体工学研究科	生体機能専攻 / 教授	西尾 一政	非公表	非公表
生命体工学研究科	生体機能専攻 / 教授	西尾 一政	非公表	非公表
生命体工学研究科	生体機能専攻 / 教授	西尾 一政	非公表	非公表
生命体工学研究科	生体機能専攻 / 教授	西尾 一政	非公表	非公表
生命体工学研究科	生体機能専攻 / 教授	西尾 一政	非公表	非公表
生命体工学研究科	生体機能専攻 / 教授	早瀬 修二	非公表	非公表
生命体工学研究科	生体機能専攻 / 教授	早瀬 修二	非公表	非公表
生命体工学研究科	生体機能専攻 / 教授	早瀬 修二	非公表	非公表
生命体工学研究科	生体機能専攻 / 准教授	玉川 雅章	株式会社安川電機 システムエンジニアリング 事業部	キャビテーション発生ノズルおよび消泡機器の研究開発
生命体工学研究科	生体機能専攻 / 准教授	宮崎 敏樹	ナカシマプロペラ株式会社	生体機能を利用した骨構造再構築材料の開発 (平成19年度おokayama・チャレンジプロジェクト支援事業 補助金)
生命体工学研究科	生体機能専攻 / 准教授	宮崎 敏樹	非公表	非公表
生命体工学研究科	生体機能専攻 / 准教授	宮崎 康次	非公表	非公表
生命体工学研究科	生体機能専攻 / 准教授	和田 親宗	非公表	非公表
生命体工学研究科	脳情報専攻 / 教授	栗生 修司	味の素株式会社	非公表
生命体工学研究科	脳情報専攻 / 教授	夏日季代久	独立行政法人理化学研究所	細胞・局所回路網レベルのNeuroinformatics
生命体工学研究科	脳情報専攻 / 准教授	神酒 勤	非公表	アナログICのテスト手法に関する研究開発
生命体工学研究科	脳情報専攻 / 准教授	宮本 弘之	西部電機株式会社	カメラ画像検品装置のための画像処理および画像認識手 法の研究
生命体工学研究科	脳情報専攻 / 准教授	宮本 弘之	非公表	非公表
マイクロ化総合技術センター	教授	中村 和之	非公表	非公表
マイクロ化総合技術センター	准教授	馬場 昭好	非公表	非公表
ヒューマンライフ IT開発センター	教授	石原 政道	沖電気工業株式会社	貫通方式の両面電極リアルチップサイズ・PKGの開発
ヒューマンライフ IT開発センター	教授	石原 政道	非公表	非公表
ヒューマンライフ IT開発センター	教授	佐藤 寧	日立マクセル株式会社	音響に関する研究
ヒューマンライフ IT開発センター	教授	佐藤 寧	船井電機株式会社 開発技 術本部	カーPCに関する研究開発
ヒューマンライフ IT開発センター	教授	佐藤 寧	非公表	非公表
ヒューマンライフ IT開発センター	教授	山田 久文	株式会社ゼンリン	「案内時に見なくても良い地図」の研究
ヒューマンライフ IT開発センター	講師	中村 俊介	非公表	非公表
先端金型センター	助教	パナート・ カチョーン ルンルアン	株式会社ソディック	レーザ光回折を利用したオンマシン工具計測装置の開発
先端エコフィッティング 技術研究開発センター	教授	萩原 益夫	東邦チタニウム株式会社	ボロンの微量添加によるチタン及びチタン合金の組織と 機械的特性の改善
安全衛生推進室	准教授	柿本 幸司	財団法人福岡県環境保全公社	めっきスラッジの再資源化システムの開発
安全衛生推進室	准教授	柿本 幸司	非公表	非公表

○事業採択実績

◇産学官連携戦略展開事業（平成20年度：文部科学省）

本学は、文部科学省公募の「産学官連携戦略展開事業（戦略展開プログラム）②特色ある優れた産学官連携活動の推進」の実施機関として、採択されました。

本事業（プログラム）は、国際的な基本特許の権利取得などを図る国際的な産学官連携体制の強化や国公私立大学間連携等による地域の多様な知的財産活動体制の構築など、大学等の活動としては実施のリスクが高く、かつ、国として政策的観点から積極的に促進すべき活動を重点的に支援することにより、大学等の産学官連携体制の強化を図ることを目的としています。

本学は、産学連携推進センターを実施組織として、本事業において「企業ニーズを解析して、本学の研究シーズをキーテクノロジーに展開するモードII型研究の全学的展開」、「北九州TLOや自治体等と連携して、地域産学官連携ボードを設置し重点課題への取組体制の整備を行い共同・受託研究の企画、技術移転の仕組みを構築する」、「情報関連分野の産業界への技術移転を安心して実施するため、研究者、弁護士、企業技術者を含めたソフトウェア著作権研究会を組織し、著作権活動における諸問題を解決する」等々の取組みを推進することとしています。

◇地域技術開発事業（平成20年度：経済産業省）

平成20年度より新規に創設された「地域イノベーション創出研究開発事業」では九州で採択された一般枠8件のうち、本学の教員が関与した事業が4件採択されました。

また、地域資源活用型研究開発事業では九州で採択された2件のうち、本学の教員が関与した事業が1件採択されました。

地域イノベーション創出研究開発事業（一般枠）

テーマ名

- 高品質自動車めっき鋼板用、世界初大型セラミックスロールの開発
- 両面電極パッケージ実用化技術とセンサ・モジュールの研究開発
- 機上ナノ計測による自動補正型次世代研削システムの開発
- 無線センサネットワークによる橋梁の健全度診断システムの開発

地域資源活用型研究開発事業

テーマ名

- 溶射法による広域波長型触媒を用いた生活空間浄化製品の開発

◇シーズ発掘事業 平成20年度までのJSTシーズ発掘の採択実績(独立行政法人 科学技術振興機構)

独立行政法人科学技術振興機構（JST）のシーズ発掘は、平成17年度にシーズ育成研究として発足し、平成18年度よりシーズ発掘と名称を変更し採択件数を倍増させました。平成19年度にも採択件数の増加があり、平成20年度は従来型のシーズ発掘は昨年とほぼ同数ですが、新たに、これまで採択されたテーマを発展させるために、発展型（B型）が新規に加わりました。

産学連携推進センターは、JSTのシーズ発掘を産学連携の登竜門であると位置付けし、これまでより活動を強化して取り組んでまいりました。以下に、これまでの申請の状況と採択件数を示します。

シーズ発掘事業—申請件数と採択件数

	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	
				A 型	B 型
本学申請件数	43件	28件	52件	63件	4件
本学採択件数	5件 (8.6倍)	10件 (2.8倍)	7件 (7.4倍)	11件 (5.7倍)	2件 (2倍)
全体状況 採択件数 倍率	3,752件 510件 約7.4倍	5,621件 1,008件 約5.6倍	6,018件 1,250件 約4.8倍	6,454件 1,332件 約4.8倍	512件 55件 約9.3倍

平成 20 年度シーズ発掘事業の採択テーマ

テーマ名	研究者名		担当コーディネーター名
	所属・氏名		
A 型	高い水素ガスバリア性を有する新しい無機化合物複合化CFRPの開発	工学研究院 機械知能工学研究系／教授 米本 浩一	田中 洋征
	電気刺激を利用した歩行訓練装置の開発	工学研究院 機械知能工学研究系／教授 田川 善彦	田中 洋征
	有機化合物を用いた高感度フッ素センシングシステムの構築	工学研究院 物質工学研究系／教授 柘植 顕彦	田中 洋征
	金属硫化物を用いたローコスト燃料電池電極触媒の開発	工学研究院 物質工学研究系／教授 清水 陽一	田中 洋征
	低コスト2軸配向金属基板を用いた高性能次世代超伝導線材の開発	工学研究院 物質工学研究系／教授 松本要	末松 正典 (JST)
	データ圧縮と情報検索アルゴリズムの融合	情報工学研究院 知能情報工学研究系／准教授 坂本 比呂志	田中 洋征
	湿式プロセスによる高効率高分子素子の開発	情報工学研究院 電子情報工学研究系／助教 永松 秀一	田中 洋征
	バイオセンサー素子マイクロペルオキシダーゼの化学合成法の開発	情報工学研究院 生命情報工学研究系 ／准教授 坂本 寛	大矢 伸宏
	大型構造物の施工時強化仕上げ法	生命体工学研究科 生体機能専攻／教授 西尾一政	長田 純夫
	地上民生品用帯電防止コーティングの宇宙環境適用性の評価	宇宙環境技術研究センター／教授 趙 孟佑	田中 洋征
	ボロン含有低コスト型組成の新規チタン系合金の開発と恒温加工性能の評価	先端エコフィティング技術研究開発センター／教授 萩原 益夫	田中 洋征
B 型	DMFC燃料電池用バルブレスマイクロポンプの高性能化	工学研究院 機械知能工学研究系／准教授 宮崎 康次	田中 洋征
	ハンドヘルド型血行測定システムの開発と実証評価	情報工学研究院 電子情報工学研究系／教授 藤居 仁	針江 俊策 (飯塚研究開発機構)

産学官をつなぐ強い味方 —— コーディネータ & 職員紹介

●コーディネータ



○氏名

田中 洋征 (たなか ひろゆき) 《客員教授》事業化プロデューサー

○専門分野

機械工学(材料強度、疲労、溶接強度)、研究開発マネジメント

○自己PR

これまで、大学・官庁・国公立研究機関及び産業界とのネットワークを活かして150件以上の共同・受託研究をコーディネートし、事業化の成功事例も経験してきたことから、共同研究等のノウハウ等に精通しています。事業化を前提にした産学官共同研究を希望される方は気軽に声をかけてください。



○氏名

小川 勝 (おがわ まさる) 《客員教授》事業化プロデューサー

○専門分野

化学(化学一般、ゴム・プラスチック、FRP、セラミック)、研究開発マネジメント、特許管理、その他IT関係を除くバイオ、環境技術を含む広域分野

○自己PR

東陶機器(株)研究所長、技術開発部長、特許管理部長、環境管理部長を歴任する中で全国レベルでの多くの人脈を得ています。また、福岡県産業・科学振興財団カタライザ-及びマッチングコーディネータ等を務め九州地区の大学、公設研、および企業等に人脈を有しています。独立行政法人科学技術振興機構(JST)から1999年以来現在まで委嘱業務を遂行しています。

これまでに、産学(官)共同研究をコーディネートした結果、成功した助成金・補助金等の金額の累計は、11年間で37億円に達します。広い分野において研究開発企画、共同研究における産学のまとめ方、事業として成功するノウハウおよび申請のポイント等に精通しています。



○氏名

長田 純夫 (ながた すみお) 《客員教授》事業化プロデューサー

○専門分野

環境、リサイクル、エネルギー、ホンモノ産学連携

○自己PR

昭和38年3月、本学金属科を卒業以来、前半の22年間は研究スペシャリストとして、後半の22年間は研究組織のマネージメントに従事しました。海外を含む5機関8職場の体験を通して、コーディネーターとは言わば産・学・官の通訳者であり、従って、産学官それぞれの言葉(文化)に通じていることが不可欠であることを学びました。しかも頼まれてから通訳するのはもちろんですが、産学官のいい組み合わせを見出して、その中に割って入る積極性と先見性と説得力も必要です。

ホンモノ産学連携では産が主役、官学はサポーター、コーディネーターは裏方の井戸掘職人です。水脈は中小企業、リサイクル産業、バイオマス産業に豊富ですが、有害物質の有無を予見するのもまたコーディネーターの役割です。九州大学社会人学び直しニーズ対応教育推進事業委員、長崎大学非常勤講師も兼務しています。



○氏名

山本 晶生 (やまもと あきお) 《非常勤講師》

○専門分野

化学工学、プロセス設計および安全解析、廃棄物&リサイクル、研究開発マネジメント

○自己PR

芳香族系化学会社において、研究開発～装置設計～プラント建設～試運転・製造を、また、管理面では工場運営全般並びに環境・安全・品質保証業務など幅広い経験をしています。PCB処理施設建設にも参画し、HAZOPによる施設の安全解析、作業環境性能評価を行っています。

現在は、(財)福岡県リサイクル総合研究センターにアドバイザーとして在籍し、循環型社会推進にかかわる廃棄物の再資源化に取り組んでいます。その過程で産学民官の連携による研究支援、共同研究プロジェクト支援等も行っています。

今後は、これまでの経験を更に活かし、新たなテーマで社会に貢献する仕事をこなしていきたいと思っています。



○氏名

堀田 計之 (ほった かずゆき)

○専門分野

電気電子 アナログ EMC (電磁環境両立性)

○自己PR

家電メーカーにて商品開発 商品企画を経験の後、電子機器企画設計会社を経営。

マーケット数量の多い商品化ノウハウ、安全面を考慮したコストダウン、安定品質の量産化技術など、シーズ検索からマーケットインまでご協力できます。

アナログ技術を活かしたEMC設計手法に関して、福岡県技術アドバイザー、山口県技術アドバイザーを委嘱されておりました。これまでの経験を地域の若手電子技術者育成にも微力ながら協力しております。

職員

○センター長 (教授) / 教育支援部門長

か	げ	ひろ	ゆき
鹿	毛	浩	之
お	くろ	りゅう	いち
小	黒	龍	一
なか	むら	くに	ひこ
中	村	邦	彦
さ	えき	むね	たか
佐	伯	心	高

○副センター長 (教授) / ベンチャー支援部門長

○知的財産部門長 (教授)

○リエゾン部門長 (教授)

○戸畑本部

・ 准教授 / 地域連携マネージャー

なか	む	た	あきら
中	牟	田	晃
こ	じま	たか	ゆき
兒	嶋	崇	之
あん	どう		しずか
安	東		静
お	なか	たけ	もと
尾	仲	武	基
しま	たに	てつ	お
島	谷	哲	雄
やす	だ	きよ	み
安	田	清	美
りょう	ち	よし	の
領	地	淑	乃
もみ	い	なお	こ
糺	井	直	子
ふくろ	の	まさ	とし
袋	野	正	敏

・ 知的財産業務支援職員

・ 知的財産マネージャー (客員教授)

・ 知的財産DNA教育マネージャー (客員教授)

・ 知的財産マネージャー

・ 技術交流会担当

・ 事務補佐員

・ 事務補佐員

・ 嘱託職員

○飯塚分室

・ 飯塚分室長 (准教授)

こ	にし	なお	き
小	西	直	樹
しば	た	ま	り
柴	田	麻	理
		り	こ
			子

・ 事務補佐員

○東京リエゾンオフィス

・ 事務補佐員

お	ぐら	ま	り	こ
小	椋	真	里	子

九州工業大学技術交流会（キューテックラボ）入会のご案内

九州工業大学では、産業界との一層の連携を深め、本学が保有する知的・人的・物的資源の活用を通じた成果の創出により地域社会の発展への貢献を図るため、九州工業大学技術交流会「キューテックラボ」を発足しました。

本交流会は、企業、関係機関、市民が会員として参加、運営し、大学が活動を支援するもので、地域、企業のニーズに応じて下記の事業を実施します。

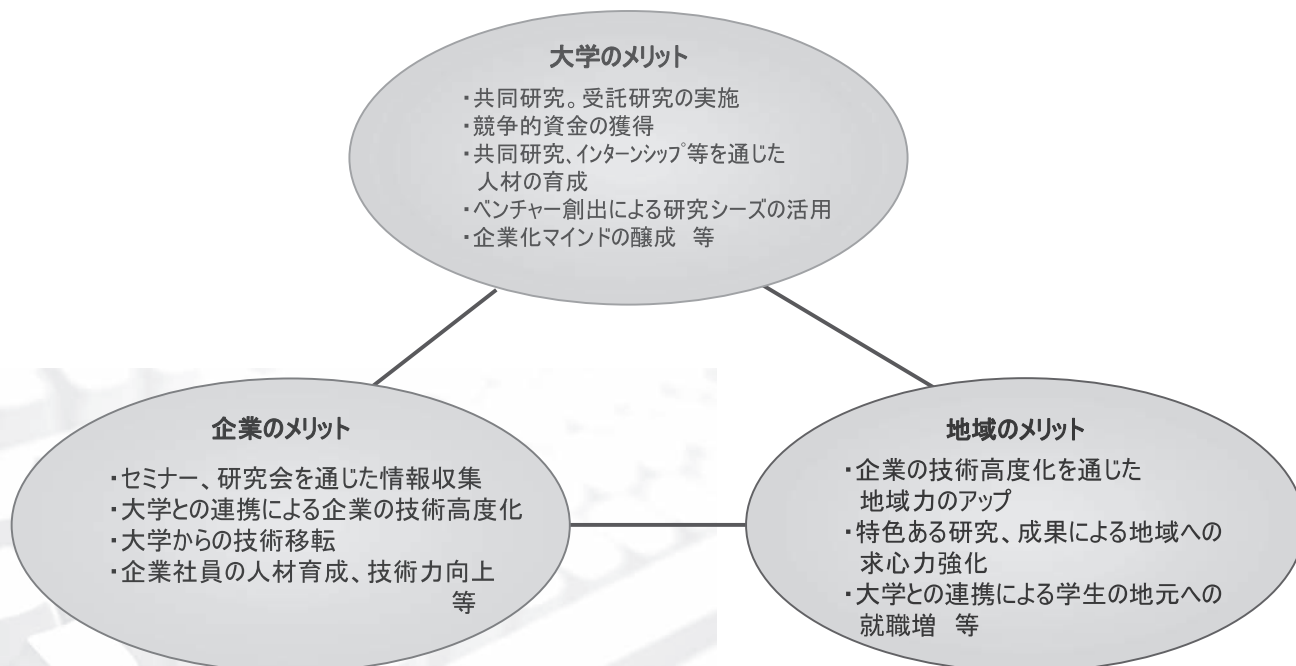
- **情報提供** < 研究情報、公募事業、知的財産情報(未公開特許情報等)、セミナー、商談会 >
- **人材育成支援** < 講師派遣、研究員受け入れ、インターンシップ事業等 >
- **会員企業、大学の研究室等が主催する研究会の支援** ※
- **共同研究、受託研究のコーディネート**
- **ベンチャー、LLP(有限責任事業組合)設立支援**
- **月例セミナー & 交流会「三木会」の開催**

< 毎月第3木曜16時～ 産学連携推進センターにて開催。参加費無料 >

※分野、テーマ別に研究会を立ち上げ(予定も含む)

粉体工学 / ハイパー乾燥 / シーズ発掘 / 新材料 / ものづくり / バイオ機器 / ベンチャーキャピタル / 機能性複合材料 / 福祉・支援機器 / エネルギー / プロジェクトマネジメント / インターンシップ / 環境・リサイクル 等

入会金・年会費等無料



キューテックラボホームページURL

<http://www.ccr.kyutech.ac.jp/collabo>

入会のお申し込みはホームページからお願いします。